

6 正月需要に向けたストックのビビフルによる開花促進

ねらいと成果

淡路のストックは茎が硬く品質のよいアイアン系品種が主力であるが、1月以降に出荷する作型が中心である。これを正月前の市場価格が高い年内出荷の作型に利用するためには開花促進技術の開発が必要である。そこでストックの開花促進に適用登録があるビビフルフロアブル（ビビフル）の処理効果については種日をかえて調査したところ、8月11日は種、9月下旬・10月上旬処理で12月上旬、8月18日は種10月上・中旬処理で1月上旬開花となり、年内開花が可能であった。

内容

品種「ピンクアイアン」を2005年8月11日～9月15日の間、1週間おきに6回は種し、八重鑑別後無加温アクリルハウスに株間、条間とも12cmで5条に定植した。いずれも葉数10～14枚時とその7日後の2回、ビビフル1000倍液を茎葉散布したところ、は種期が早いほど開花促進効果が高かった（図1）。8月11日には種し9月下旬と10月上旬にビビフルを処理した場合、平均開花日が12月6日となり無処理の平均1月31日より56日早く、年内に収穫できた。

8月18日には種し10月上・中旬に処理した場合は、無処理の2月2日より27日早い1月6日の平均開花となり、年内に1/3程度が収穫できた。9月8日以降のは種では促進効果がなかった。

開花促進効果が大きかった8月11日・18日は種の切り花長は、無処理の83cm・82cmに比べビビフル処理で70cm・78cmと短くなった。8月25日以降のは種では無処理とほぼ同じかやや長くなる傾向がみられ、9月15日は種では無処理の68cmに比べて71cmとなった（図2）。アイアン系は草丈がやや伸びにくい、淡路におけるストックの秀品規格の要件である70cmをほぼ満たす切り花長が得られた。

今後の方針

ストックの開花は気温を中心とした気象条件の変動により開花期が前後することが知られているので、それに左右されない安定した開花調節技術を検討する。また、切り花長等の品質向上のため、直まき栽培での利用を検討する。

岩井 豊通（淡路農技セ・農業部）
（問い合わせ先 電話：0799-42-4881）

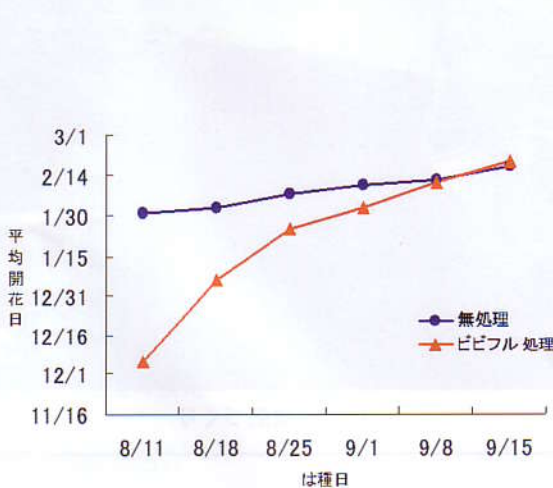


図1 ビビフル処理とは種日が開花に及ぼす影響

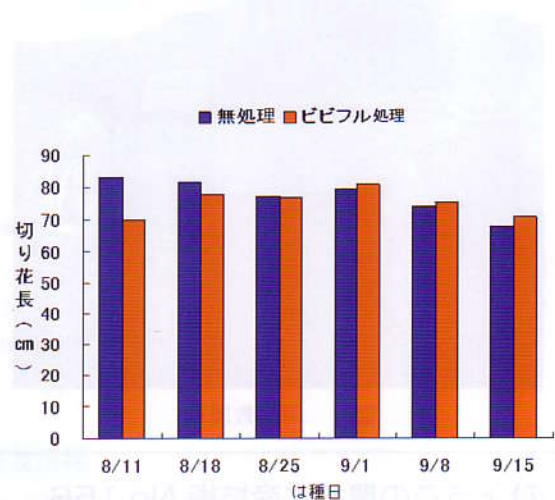


図2 ビビフル処理とは種日が切り花長に及ぼす影響